加筆：**太赤字**　　修正：青字　　削除：~~赤字~~　　令和６（2024）年７月１日

令和6（2024）年度　競技規則書　新旧対応表

日本車椅子ハンドボール連盟

競技・審判委員会

下記のとおり、2024 年５月に開催された IHF Wheelchair Handball Referee/TD リフレッシュミーティング（4 日:セッションⅠ、11 日:セッションⅡ）及び IHF インドア７人制競技規則改訂（2024 年７月１日施行）に基づき修正箇所を示しますので、ご確認の上、チーム関係者と共有していただきますようお願いします。

更新の際は改めてアナウンスさせていただきますので、ご理解とご了承を賜りますようお願いします。

旧（2023 年４月１日発行）	新（2024 年７月１日発行）	備考
序文 国際ハンドボール連盟（以下、IHF）は，2028 年パラリンピックからの車椅子ハンドボール競技の採択を目指し，2022 年に国際競技規則を策定し，第１回４人制車椅子ハンドボール世界選手権（エジプト），６人制車椅子ハンドボール世界選手権（ポルトガル）を開催した。~中略~ 【注】　本規則書は、（公財）日本ハンドボール協会（以下，JHA）競技規則 2023 年版に加筆した IHF４人制・６人制競技規則に関する箇所を朱書きで表している。	序文 この競技規則を，令和 6（2024）年７月１日より施行する。本規則書では、競技規則条文，注，ジェスチャー，競技規則解釈，交代地域規定，以上すべてを総合規則に包括する。また，（公財）日本ハンドボール協会（以下，JHA）から令和 6（2024）年３月末現在までに出された競技規則運用に関する通達等を参考としてまとめた「競技規則運用に関するガイドライン」JWHF 版についても参考にすること。「コートとゴールに関するガイドライン」JWHF 版は、この内容を用いる人たちの便宜を図るため、単に競技規則書に収めたものであり，総合規則には含めない。国際ハンドボール連盟（以下、IHF）は 2022 年に国際競技規則を策定し，2022 年に第１回(4 人制)エジプトと第２回(6 人制)ポルトガル、**2024 年に第３回(4 人制）エジプトの世界選手権**の開催により、2032 年ブリスベンパラリンピックからの車椅子ハンドボール競技の採択を目指している。 ~中略~　**JHA2024 年版競技規則及び IHF2024 年車椅子ハンドボール国際審判/TD リフレッシュ MTG での提示内容を「2024 年度競技規則書新旧対応表」に整理したので参考にすること。**	修正 修正 加筆 修正 加筆
２の７　~省略~ もし後半が遅れて終了した場合には，レフェリーは何も変更することはできない。	２の７　~省略~ もし後半**（4 人制は第２セット）**が遅れて終了した場合には，レフェリーは何も変更することはできない。	加筆
２の９　ジェスチャー 15	２の９　ジェスチャー 16	修正
５の５　不正交代をしたプレーヤーは，２分間退場となる。	５の５　不正交代をしたプレーヤーは、２分間**（4 人制は次のターンオーバーまで）**退場となる。	加筆
５の６　~省略~ あるいはプレーヤーが交代地域から不正に競技を妨害した場合，そのプレーヤーは２分間退場となる。したがって，チームはコート上のプレーヤーを２分間１名減らされた状態で競技を継続する。~中略~　退場中のプレーヤーがコートに入った場合は，さらに２分間の退場が加えられる。	５の６　~省略~ あるいはプレーヤーが交代地域から不正に競技を妨害した場合，そのプレーヤーは２分間**（4 人制は次のターンオーバーまで）**退場となる。したがってチームはコート上のプレーヤーを２分間　**（4 人制は次のターンオーバーまで）**１名減らされた状態で競技を継続する。~中略~　~~2 分間~~退場中のプレーヤーがコートに入った場合はさらに２分間**（4 人制は次のターンオーバーまで）**の退場が加えられる。	加筆 加筆 削除 加筆
５の 10　~省略~ ボールのプレー中や防御中にコートプレーヤーがリフティングした	５の 10　~省略~ ボールのプレー中や防御中にコートプレーヤーがリフティングした場	

場合，２分間退場となる。	合，２分間退場（4人制は次のターンオーバーまで）となる。	加筆
５の13　（ジェスチャー 15，16を用いて）	５の13　（ジェスチャー 16，17を用いて）	修正
５の13 【注】~省略~ 競技規則５：11第１段落により，	５の13 【注】~省略~ 競技規則５：13第１段落により，	修正
７の２　（ｂ）~省略~ フリースローとする（14：1b，９：７ｆを参照）。	７の２　（ｂ）~省略~フリースローとする（14：1b，９：７ｅを参照）。 （ｃ）防御側チームのコートプレーヤーがゴールエリアに侵入し，これにより明らかな得点チャンスを妨害した場合は，７ｍスローとする（15：１ａ、９の８ｇ）。	修正 加筆
８の４　（ｃ）片手でボールを繰り返し床の上で転がし，	８の４　（ｃ）片手でボールを~~繰り返し~~床の上で転がし，	削除
８の６　ボールを拾うために、車椅子を使ったり触れたりすること。	８の６　ボールを拾うために、静止した状態の車椅子を使ったり触れたりすること。	加筆
	８の11　ボールを繰り返し転がすこと、ボールを使って車輪にブレーキをかけること、車椅子を動かしながらボールを拾うこと、足を床に着いてシュートすること。	加筆
パッシブプレー　８の11	パッシブプレー　８の12	修正
８の12　レフェリーはパッシブプレーの兆候を察知したとき，予告合図（ジェスチャー17）を示す。これにより，ボールを所持しているチームはその所持を失わないように，攻撃方法を改める機会を得る。予告合図を出した後も，ボールを所持しているチームが攻撃方法を改めなかったときは，レフェリーはいつでもパッシブプレーの判定をすることができる。最大４回のパスの後、攻撃側チームがシュートをしなかった場合、相手チームにフリースローを与える（14：１ａ，競技規則解釈４Ｄの手順と例外を参照）。 ~省略~	８の13　レフェリーはパッシブプレーの兆候を察知したとき，予告合図（ジェスチャー17）を示す。これにより，ボールを所持しているチームはその所持を失わないように，攻撃方法を改める機会を得る。予告合図を出した後も，ボールを所持しているチームが攻撃方法を改めなかったときは，レフェリーはいつでもパッシブプレーの判定をすることができる。最大４回のパスの後、攻撃側チームがシュートをしなかった場合，つまり５回目のパスを味方のプレーヤーがキャッチした場合、相手チームにフリースローを与える（14：１ａ，競技規則解釈４Ｄの手順と例外を参照）。~省略~	修正 加筆
９の３　~省略~ 即座に２分間退場を判定すべき違反行為	９の３　~省略~ 即座に２分間（4人制は次のターンオーバーまで）退場を判定すべき違反行為	加筆
即座に２分間退場を判定すべき違反行為 ９の４	即座に２分間（4人制は次のターンオーバーまで）退場を判定すべき違反行為 ９の４	加筆
９の６ ~省略~ 罰則を適用すべきスポーツマンシップに反する行為 ~省略~・即座に２分間退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為 【注】　競技終了前30秒間に，相手の得点を妨害するという目的でプレーヤーが競技規則９：５や９：６に該当する違反をした場合，この違反は競技規則９：10ｄにより，「極めてスポーツマンシップに反する行為」と見なす。 罰則を適用すべきスポーツマンシップに反する行為（９：7～10ｄ） スポーツマンシップの精神に反する身体的・言語的表現は，スポーツマンシップに反する行為と見なす。	９の６　~省略~ 罰則を適用すべきスポーツマンシップに反する行為 ~省略~・即座に２分間（4人制は次のターンオーバーまで）退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為 【注】　競技終了前30秒間に，相手の得点を妨害するという目的でプレーヤーが競技規則９：５や９：６に該当する違反をした場合，この違反は競技規則９：11bにより，「極めてスポーツマンシップに反する行為」と見なす。 罰則を適用すべきスポーツマンシップに反する行為（９：7～11） スポーツマンシップの精神に反する身体的・言語的表現は，スポーツマンシップに反する行為と見なす。	加筆 修正 修正
９の７　~省略~ （ｄ） タイムアウトを取らせるためや相手に不当な罰則を適用させるため，演技によりレフェリーの判断を欺くこと，あるいは違反を誇張する。	９の７　~省略~ （ｄ）レフェリーに不要なタイムアウトを取らせるためや相手に対して不当となる罰則をレフェリーに適用させるために，「プロボケーション」や「オーバーリアクション」を行うことによりレフェリーの判	加筆 加筆

	断を欺こうとする，あるいは違反の影響を誇張する。（９の８ｆを参照）	
即座に２分間退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為 ９の８　特定の違反をしたプレーヤーやチーム役員は，前もって警告となっていなくても，即座に２分間退場を判定する。 【注】~省略~ゴールキーパーがレフェリーの判断を欺くために，演技を行った場合（例えば，ゴールキーパーの胸に直撃したにもかかわらず，顔に当たったように見せかける等）は，ゴールキーパーに対してスポーツマンシップに反する行為として，競技規則９：７ｄを適用する。	即座に２分間（４人制は次のターンオーバーまで）退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為 ９の８　特定の違反をしたプレーヤーやチーム役員は，前もって警告となっていなくても，即座に２分間（４人制は次のターンオーバーまで）退場を判定する。（中略） （ｅ）３ｍの距離を確保することなく、極極的に妨害する、あるいは他の違反をすることで、相手の各種スローの実施を妨害する。 （ｆ）レフェリーに競技を中断させたり、相手に不当な罰則をレフェリーに適用させたりするため、当該部位への身体接触がほんのわずか、あるいは全くない状況で、「シミュレーション」を行うことにより、レフリーの判断を欺こうとする（９の７ｄ参照）。 （ｇ）コートプレーヤーが、ゴールキーパー不在の無人のゴールに向けて投げられたボールを、ゴールエリアに侵入し阻止あるいはキャッチする。 【注】~省略~ゴールキーパーがレフェリーの判断を欺くために，演技を行った場合（例えば，ゴールキーパーの胸に直撃したにもかかわらず，顔に当たったように見せかける等）は，ゴールキーパーに対してスポーツマンシップに反する行為として，競技規則９：８ｆを適用する。	加筆 加筆 加筆 修正
９の９　~省略~ （ｅ）フリースローを直接シュートする際に，ボールの方向への頭部を動かしていない防御側プレーヤーの頭部にボールをぶつける。~省略~	９の９　~省略~ （ｅ）競技規則２：４による終了合図のフリースローの実施に際して、ボールの方向への頭部を動かしていない防御側プレーヤーの頭部にボールをぶつける。~省略~	修正
極めてスポーツマンシップに反する行為（(ａ)(ｂ)，９：６との関連は報告書を伴う） ９の10 ~省略~【注】退場，失格の場合，退場または失格となったプレーヤーの持ち点を，２分間，最大チーム持ち点から減らすものとする。	報告書を伴う失格とすべき極めてスポーツマンシップに反する行為 ９の10 ~省略~【注】退場，失格の場合，退場または失格となったプレーヤーの持ち点を２分間（４人制:次のターンオーバーまで），最大チーム持ち点から減らすものとする。	修正 加筆
９の10 ~省略~ 以下の（ｃ）及び（ｄ）のような違反行為があった場合，相手チームに７ｍスローを与える。 （ｃ）　競技終了前30秒間，競技の中断中にプレーヤーやチーム役員が，相手がシュートをする，あるいは得点を狙える位置に到達する可能性をなくすために，相手のスローの実施を妨げた，または遅らせた場合，これは極めてスポーツマンシップに反する行為とし，違反行為をしたプレーヤーやチーム役員は失格となり，相手チームに７ｍスローを与える。すべての妨害行為に対しても適用する（例えば，子細な身体接触によりパスをインターセプトする，相手にボールを取らせない，ボールをつかんで離さないなどスローの実施を妨げる行為）。	競技終了前30秒間における失格と7mスローとすべきスポーツマンシップに反する行為または不正な行為 ９の11 以下の（ａ）及び（ｂ）のような違反行為があった場合，相手チームに７ｍスローを与える。 （ａ）競技終了前30秒間，競技の中断中にプレーヤーやチーム役員が，相手がシュートをする，あるいは得点を狙える位置に到達する可能性をなくすために，相手のスローの実施を妨げた，または遅らせた場合，これは極めてスポーツマンシップに反する行為とし，違反行為をしたプレーヤーやチーム役員は失格となり，相手チームに７ｍスローを与える。すべての妨害行為に対しても適用する（例えば，子細な身体接触によりパスをインターセプトする，相手にボールを取らせない，ボールをつかんで離さないなどスローの実施を妨げる行為）。	加筆 ※現行9:10(c)(d)の移動により修正

（d） 競技終了前30秒間，インプレー中に以下の（1）および（2）のような違反行為により相手がシュートをする，あるいは得点を狙える位置に到達する可能性をなくした場合，違反行為をしたプレーヤーやチーム役員は失格となり，相手チームに7mスローを与える。 （1）プレーヤーが，競技規則9：5，9：6，9：10a，9：1b(ii)に該当する違反行為をした。 （2）チーム役員が，競技規則9：10a，9：10b(i)に該当する違反行為をした。ただし，競技が中断される前に，違反されたプレーヤーやそのチームのプレーヤーがシュートを決めたならば，そのシュートは得点とし，改めて7mスローを与える必要はない。	（b） 競技終了前30秒間，インプレー中に以下の（1）および（2）のような違反行為により相手がシュートをする，あるいは得点を狙える位置に到達する可能性をなくした場合，違反行為をしたプレーヤーやチーム役員は失格となり，相手チームに7mスローを与える。 （1） プレーヤーが，競技規則9：5，9：6，**9：9，**9：10a，9：1b(ii)に該当する違反行為をした。 （2）チーム役員が，競技規則9：10a，9：10b(i)に該当する違反行為をした。ただし，競技が中断される前に，違反されたプレーヤーやそのチームのプレーヤーがシュートを決めたならば，そのシュートは得点とし，改めて7mスローを与える必要はない。 **【注】競技規則9：6および9：10に該当する違反行為をした場合、報告書を提出しなければならない。**~省略~	修正 加筆 加筆
10の5【注】 シュートアウトにおいても、上記(a)(b)に対しては2点が与えられる。	10の5【注】 シュートアウトにおいても、360度回転直後のシュートで得点した場合は2点が与えられる。	修正
「4人制」 11の2 得点の後は，得点をされたチームのゴールキーパーが，レフェリーの笛の後にゴールキーパースローを行うことによって競技を再開する	**「4人制」** 11の2 得点の後は，得点をされたチームのゴールキーパーが，レフェリーの笛なしにゴールキーパースローを行うことによって競技を再開する	修正
11の3 ~省略~ (b)スローオフエリアを設置したコートでのスローオフ ~省略~ －スローを行うチームの相手のプレーヤーは，スローオフエリアの外にいなければならない。さらに，スローオフを行ったと見なされるまで，スローを行うチームの相手のプレーヤーは，スローオフエリアの中でボールやスローを行うプレーヤー，およびその味方のプレーヤーに触れることはできない（16：4，9：7c）。ただし，スローオフエリアのすぐ外にいてもよい。	11の3~省略~ (b)スローオフエリアを設置したコートでのスローオフ ~省略~ －スローを行うチームの相手のプレーヤーは，スローオフエリアの外にいなければならない。さらに，スローオフを行ったと見なされるまで，スローを行うチームの相手のプレーヤーは，スローオフエリアの中でボールやスローを行うプレーヤー，およびその味方のプレーヤーに触れることはできない（16：4，9：7c**，9：8e**）。ただし，スローオフエリアのすぐ外にいてもよい。	(b)-8つ目 加筆
「4人制」 11の3 各セットの開始時のスローオフは，コートの中央から行う。得点の後，得点されたチームのゴールキーパーは，ボールがゴールエリアラインを越えるように笛の合図から30秒以内にスローを行わなければならない	**「4人制」** 11の3 各セットの開始時のスローオフは，コートの中央から行う。得点の後，得点されたチームのゴールキーパーは，ボールがゴールエリアラインを越えるように笛の合図なしにスローを行わなければならない	修正
11の4 ~省略~ スローオフエリアを採用しないコートでスローオフを行う場合（11：3a），相手チームのプレーヤーは，スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていなければならない（16：4，16：9，9：7c）。 スローオフエリアを設置したコートでのスローオフを行う場合（11：3b），相手チームのプレーヤーは，スローオフエリアラインの外側にいなければならない（16：4，16：9，9：7c）。	11の4 ~省略~ スローオフエリアを採用しないコートでスローオフを行う場合（11：3a），相手チームのプレーヤーは，スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていなければならない（16：4，16：9，9：7c**，9：8e**）。 スローオフエリアを設置したコートでのスローオフを行う場合（11：3b），相手チームのプレーヤーは，スローオフエリアラインの外側にいなければならない（16：4，16：9，9：7c**，9：8e**）。	3段落以降 加筆 加筆
	11の5 **ゴールデンゴールのスタートは、第2セットの最後にボールを保持していたチームのスローオフで始める。**	加筆
12の5 スローインを行うとき，相手チームのプ	12の5 スローインを行うとき，相手チームのプレ	

レーヤーはスローを行うプレーヤーから３m以上離れていなければならない（16：4，16：9，9：7ｃ）。 ~省略~	ーヤーはスローを行うプレーヤーから３m以上離れていなければならない（16：4，16：9，9：7ｃ，**9：8ｅ**）。 ~省略~	加筆
13 の 2　~省略~ 相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが，ボールがゴールエリアラインを完全に通過するまで，ボールに触れることはできない（16：4，16：9，9：7ｃ）。	13 の 2　~省略~ 相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが，ボールがゴールエリアラインを完全に通過するまで，ボールに触れることはできない（16：4，16：9，9：7ｃ，**9：8ｅ**）。	４段落 加筆
14 の 3 競技規則 14：1ａ～ｂにより，通常フリースローを判定するような状況が競技の中断中に起こった場合，その中断の理由に相応しいスローで競技を再開する（9：10ｃ競技終了前 30 秒間も参照）。	14 の 3 競技規則 14：1ａ～ｂにより，通常フリースローを判定するような状況が競技の中断中に起こった場合，その中断の理由に相応しいスローで競技を再開する（競技終了前 30 秒間における 9：11ａ，**チームタイムアウト電子申請システム規定**も参照）。	修正 加筆
14 の 8 フリースローを行うとき相手チームのプレーヤーは，スローを行うプレーヤーから３m以上離れなければならない。しかし，防御側チームのフリースローラインのすぐ外側からフリースローを行う場合，防御側チームは自陣のゴールエリアラインの外側に沿って立つことが許される。フリースローの実施を妨害した場合，競技規則 16：9 と 9：7ｃにより罰則を適用する。	14 の 8 フリースローを行うとき相手チームのプレーヤーは，スローを行うプレーヤーから３m以上離れなければならない。しかし，防御側チームのフリースローラインのすぐ外側からフリースローを行う場合，防御側チームは自陣のゴールエリアラインの外側に沿って立つことが許される。フリースローの実施を妨害した場合，競技規則 16：9，9：7ｃ，**9：8ｅ**により罰則を適用する。	加筆
	14 の 9　　４人制でのフリースローでは、360 度回転シュートはない。	加筆
15 の 1　~省略~ （ｄ）　競技規則 9：10ｃ，9：10ｄに記載されている違反行為があったとき（9：10 最終段落も参照）。	15 の 1　~省略~ （ｄ）　競技規則 9：11a，9：11b に記載されている違反行為があったとき（9：11 最終段落も参照）。	修正
16 の 1　~省略~ ゴールキーパースロー（13：2）とスローオフエリアを用いて実施するスローオフ（11：3ｂ）の場合を除き各種スローの実施中は，ボールを手から離すまでスローを行うプレーヤーは片輪の一部を終始，床につけていなければならない（ただし，11：3ｂを参照）。~省略~	16 の 1　~省略~ ゴールキーパースロー（13：2）とスローオフエリアを用いて実施するスローオフ（11：3ｂ）の場合を除き各種スローの実施中は，ボールを手から離すまでスローを行うプレーヤーは**同じ**片輪の一部を終始，床につけていなければならない（ただし，11：3ｂを参照）。~省略~	２段落 加筆
16 の 9　~省略~ スローの前に再開の笛の合図の有無にかかわらず，この行為を違反と判定する。競技規則 17：1ｂ，と 17：3ｄに関連して，競技規則 9：7ｃを適用する。	16 の 9　~省略~ スローの前に再開の笛の合図の有無にかかわらず，この行為を違反と判定する。競技規則 17：1ｂ，と 17：3ｄに関連して，競技規則 9：7ｃ**または 9：8ｅ**を適用する。	２段落 加筆
17 の 3　　次の場合は，２分間退場とする。	17 の 3　次の場合は，２分間**（4 人制：次のターンオーバーまで）**退場とする。	加筆
17 の 6　　次の場合は，失格とする。 （省略）（ｄ）　同一のプレーヤーの３回目の退場に伴う結果として	17 の 6　　次の場合は，失格とする。 （省略）（ｄ)同一のプレーヤーの３回目**（4 人制:2 回目）**の退場に伴う結果として	加筆
17：8　~省略~ コートの内外に関係なく，競技時間中のプレーヤーやチーム役員の失格に対して，チームには毎回２分間の退場が伴う。これは，そのチームがコート上のプレーヤーを２分間１名減らさなければならないことを意味する（17：3ｆ）。ただし，競技規則 17：9ｂ～ｄに示した状況でプレーヤーが失格となった場合，コート上のプレーヤーを４分間続けて１名減らすことになる。	17：8　~省略~ コートの内外に関係なく，競技時間中のプレーヤーやチーム役員の失格に対して，チームには毎回２分間**（4 人制：次のターンオーバーまで）**の退場が伴う。これは，そのチームがコート上のプレーヤーを２分間**（4 人制：次のターンオーバーまで）**１名減らさなければならないことを意味する（17：3ｆ）。ただし，競技規則 17：9ｂ～ｄに示した状況でプレーヤーが失格となった場合，コート上	２段落 加筆 加筆

失格により，競技に参加できるプレーヤーやチーム役員の数は減る（ただし 17：11ｂの場合を除く）。しかし 2 分間の退場時間が終了すれば，チームはコート上のプレーヤーの数を戻すことができる。	のプレーヤーを 4 分間（6 人制）続けて 1 名減らすことになる。 失格により，競技に参加できるプレーヤーやチーム役員の数は減る（ただし 17：11ｂの場合を除く）。しかし 2 分間（4 人制：次のターンオーバーまで）の退場時間が終了すれば，チームはコート上のプレーヤーの数を戻すことができる。	加筆 加筆
17 の 9　（省略）しかし次のような特例に限って，チームはコート上のプレーヤーを 4 分間減らして競技をしなければならない。 （ａ）　退場となった直後のプレーヤーが，競技の再開前にスポーツマンシップに反する行為をしたならば，そのプレーヤーはさらに 2 分間の退場が追加される。追加の退場が，そのプレーヤーの 3 回目の退場となる場合，当該プレーヤーは失格となる。 （ｂ）　（直接の，または 3 回目の退場による）失格となった直後のプレーヤーが，競技の再開前にスポーツマンシップに反する行為をしたならば，チームは罰則を追加され，コート上のプレーヤーを 4 分間減らして競技をすることになる。 （ｃ）　退場となった直後のプレーヤーが，競技の再開前に著しくあるいは極めてスポーツマンシップに反する行為をしたならば，そのプレーヤーはさらに失格となる。この２つの罰則を合わせ，チームはコート上のプレーヤーを 4 分間減らして競技をすることになる。 （ｄ）（直接の，または 3 回目の退場による）失格となった直後のプレーヤーが，競技の再開前に著しくあるいは極めてスポーツマンシップに反する行為をしたならば，チームは罰則を追加され，コート上のプレーヤーを 4 分間減らして競技をすることになる。	17 の 9　（省略）しかし次のような特例に限って，チームはコート上のプレーヤーを 4 分間（6 人制）減らして競技をしなければならない。 （ａ）　退場となった直後のプレーヤーが，競技の再開前にスポーツマンシップに反する行為をしたならば，そのプレーヤーはさらに 2 分間（4 人制:次のターンオーバーまで）の退場が追加される。追加の退場が，そのプレーヤーの 3 回目（4 人制:2 回目）の退場となる場合，当該プレーヤーは失格となる。 （ｂ）（直接の，または 3 回目（4 人制:2 回目）の退場による）失格となった直後のプレーヤーが，競技の再開前にスポーツマンシップに反する行為をしたならば，チームは罰則を追加され，コート上のプレーヤーを 4 分間（6 人制）減らして競技をすることになる。 （ｃ）退場となった直後のプレーヤーが，競技の再開前に著しくあるいは極めてスポーツマンシップに反する行為をしたならば，そのプレーヤーはさらに失格となる。この 2 つの罰則を合わせ，チームはコート上のプレーヤーを 4 分間（6 人制）減らして競技をすることになる。 （ｄ）（直接の，または 3 回目（4 人制: 2 回目）の退場による）失格となった直後のプレーヤーが，競技の再開前に著しくあるいは極めてスポーツマンシップに反する行為をしたならば，チームは罰則を追加され，コート上のプレーヤーを 4 分間（6 人制）減らして競技をすることになる。	加筆 加筆 加筆 加筆 加筆 加筆 加筆
競技規則解釈　3.チームタイムアウト タイムキーパーは笛を吹いて競技を中断し，時計を止める。その後タイムキーパーは，タイムアウトの合図（ジェスチャー 15）を示し，腕を伸ばしてチームタイムアウトを請求したチーム側を指す。	**競技規則解釈**　3.チームタイムアウト タイムキーパーは笛を吹いて競技を中断し，時計を止める（2：9）。その後タイムキーパーは，タイムアウトの合図（ジェスチャー 16）を示し，腕を伸ばしてチームタイムアウトを請求したチーム側を指す。	4 段落 修正
競技規則解釈　8.負傷したプレーヤー （省略）（ａ）レフェリーが明らかにコート上での治療行為が必要と判断した場合，すぐにジェスチャー15 と 16 を行う。（中略） （ｃ）競技規則 5：11 第 2 段落は，以下の場合には適用しない。）	**競技規則解釈**　8.負傷したプレーヤー （省略）（ａ）レフェリーが明らかにコート上での治療行為が必要と判断した場合，すぐにジェスチャー16 と 17 を行う。 （中略） （ｃ）競技規則 5：13 第 2 段落は，以下の場合には適用しない。）	修正 修正
競技規則運用に関するガイドライン **負傷したプレーヤーの救護（5：11）**	**競技規則運用に関するガイドライン** **負傷したプレーヤーの救護（5：13）**	修正
競技規則運用に関するガイドライン **コートプレーヤーのゴールエリア侵入（9:7ｆ）** （省略）自陣のゴールエリアに立ち入った場合も（9：7ｆを適用して）	**競技規則運用に関するガイドライン** **コートプレーヤーのゴールエリア侵入（9:7ｅ）** （省略）自陣のゴールエリアに立ち入った場合も（9：7ｅを適用して）	修正 修正
競技規則運用に関するガイドライン **各種スローの実行（第 15 条）**	**競技規則運用に関するガイドライン** **各種スローの実行（第 16 条）**	修正

競技規則運用に関するガイドライン **失格となったプレーヤーによる，競技再開前の極めてスポーツマンシップに反する行為について** 　直接または３回目の退場による失格を判定されたプレーヤーが、競技再開前に競技規則９：10ａに該当するような極めてスポーツマンシップに反する行為をした場合，そのプレーヤーに対して報告書を伴う失格を追加する。この場合，チームはコート上のプレーヤーを，４分間減らさなければならない。	競技規則運用に関するガイドライン **失格となったプレーヤーによる，競技再開前の極めてスポーツマンシップに反する 行為について** 　直接または３回目**（４人制：２回目）**の退場による失格を判定されたプレーヤーが、競技再開前に競技規則９：10ａに該当するような極めてスポーツマンシップに反する行為をした場合，そのプレーヤーに対して報告書を伴う失格を追加する。この場合，チームはコート上のプレーヤーを，４分間**（６人制）**減らさなければならない。	加筆 加筆

加筆：**太赤字**　　修正：青字　　削除：~~赤字~~

交代地域規定

旧（2023 年 4 月 1 日発行）	新（2024 年 7 月 1 日発行）	備考
1．　~省略~ センターラインから 3.5ｍの位置に，チームベンチの始端を設置する。この位置は「コーチングゾーン」の始端でもある~~（ただし，国内における「コーチングゾーン」とは，センターラインから 3.5ｍの位置を始端，センターラインから 12ｍをその終端とし，この領域を明確にするためラインを引くこととする。そのラインは，サイドラインの外側から 30 ㎝の距離に，サイドラインに対して垂直に 50 ㎝の長さで引く）~~。 ~省略~	1．　~省略~ センターラインから 3.5ｍの位置に，チームベンチの始端を設置する。この位置は「コーチングゾーン」の始端でもある。 ~省略~	2 段落 削除 ※5.に、新たにエリアに関する具体的な記載がなされたため
5. ~省略~ しかし，特に次のような目的の場合に，チーム役員は「コーチングゾーン」の範囲内を行き来することが**許される**。「コーチングゾーン」とは，ベンチの前であり，会場の都合で可能な場合は，ベンチの真後ろを含む。	5. ~省略~ しかし，特に次のような目的の場合に，チーム役員は「コーチングゾーン」の範囲内を行き来することが**許される**。 「コーチングゾーン」は，センターラインから、3.5ｍの位置を始点、それぞれのアウターゴールラインから 8ｍの位置を終端とし、場所に余裕があるときはベンチの真後ろも含まれる。 **「コーチングゾーン」の終端は，サイドラインの外側にサイドラインに対して垂直につなげるように、長さ 50ｃｍ、幅 5ｃｍのラインを引くこととする。** **※補足　国内において、始点のラインを引く場合、サイドラインの外側から 30ｃｍの距離に、サイドラインに対して垂直に 50ｃｍの長さで引く。その理由は交代ラインとの違いを明確にするためである。上記の終端のラインがサイドラインに対してつなげるように引く理由は、コーチングゾーンの終端を明確にするためである。** ~省略~	2 段落 修正 加筆

加筆：太赤字　　修正：青字　　削除：赤字

競技規則運用に関するガイドライン

旧（2023 年 4 月 1 日発行）	新（2024 年 7 月 1 日発行）	備考
終了合図後のフリースローの実施 **（2：6，9：10ｃ）** いわゆるノータイムのフリースローや７ｍスローの実施の最中に，防御側チームによる違反やスポーツマンシップに反する行為があったならば，該当するプレーヤーに対し，競技規則 17：3，17：6 または 17：9 に基づき罰則を適用し，攻撃側チームに再度スローを行わせる（16：9 第 3 段落）。この場合，競技規則 9：10ｃ（競技終了前 30 秒間）は適用されない。	**終了合図後のフリースローの実施** **（2：6，9：11ａ）** いわゆるノータイムのフリースローや７ｍスローの実施の最中に，防御側チームによる違反やスポーツマンシップに反する行為があったならば，該当するプレーヤーに対し，競技規則 17：3，17：6 または 17：9 に基づき罰則を適用し，攻撃側チームに再度スローを行わせる（16：9 第 3 段落）。この場合，競技規則 9：11ａ（競技終了前 30 秒間）は適用されない。	修正 修正
	コートへの入場（5：4～5：6） **不正交代は、コートから出るプレーヤーとコートに入るプレーヤーの両方が、同時に少なくとも片輪がコート上にある場合、適用となる。** **不正入場は、味方のプレーヤーが誰もコートから出ていないにもかかわらず、交代地域から余計に入ったプレーヤーの両輪がコート上にある場合、適用となる。** **交代ラインの不正利用は、コートから出る、あるいはコートに入るプレーヤーの両輪が、交代ラインやセンターラインの外側にある場合、適用となる。**	加筆
負傷したプレーヤーの救護（5：11）	**負傷したプレーヤーの救護（5：13）**	修正
負傷したゴールキーパー（7：8） ゴールキーパーがプレー中にボールをぶつけられると，プレーの続行は不可能である。一般的にゴールキーパーの救護は優先されるべきである。ゲームの再開方法は，以下のとおり状況により異なる。 ａ）ボールがサイドラインやアウターゴールラインを通過したとき，また，ゴールエリア内で止まっている，あるいは転がっているとき。 正しい運用　：　競技を即座に中断し，ゴールキーパーの救護の後，スローインかゴールキーパースローで競技を再開。	**負傷したゴールキーパー（7：8）** ゴールキーパーがプレー中にボールをぶつけられると，プレーの続行は不可能である。一般的にゴールキーパーの救護は優先されるべきである。ゲームの再開方法は，以下のとおり状況により異なる。 **ボールがゴールエリアからプレーイングエリアに戻っている際は、インプレー中となる。** ａ）ボールがサイドラインやアウターゴールラインを通過したとき，また，ゴールエリア内で止まっている，あるいは転がっているとき。 正しい運用　：　競技を即座に中断し，ゴールキーパーの救護の後，スローインかゴールキーパースロー、**（中断の理由に相応しい）フリースロー**でゲームを再開。	加筆 加筆 修正
競技規則 9：5【注】に関連したゴールキーパーの失格（IHF2019 ガイドライン通達 一部改訂）　~省略~ ｂ）攻撃側プレーヤーがボールを後方から追っている，ボールは前方にいるゴールキーパーと攻撃側プレーヤーの間にある（つまり，攻撃側プレーヤーは前方にいるゴールキーパーを認知できている）場合。	**競技規則 9：5【注】に関連したゴールキーパーの失格（IHF2019 ガイドライン通達 一部改訂）**~省略~ ｂ）ボールが前方にいるゴールキーパーとそれを追う攻撃側プレーヤーとの間にある場合、**ボールを後方から追いかけている攻撃側プレーヤー**（つまり，前方にいるゴールキーパーを認知できている攻撃側プレーヤー）**は、**	修正 加筆 修正 加筆

~省略~	衝突を回避することが可能である。~省略~	
コートプレーヤーのゴールエリア侵入（9:7ｆ） チームがゴールキーパーなしでプレーしていて，ボールの所持を失った場合，自チームが有利になるためにコートプレーヤーが自陣のゴールエリアに立ち入った場合も（9：7ｆを適用して）段階的罰則を与える。	**コートプレーヤーのゴールエリア侵入（9:7ｅ）** チームがゴールキーパーなしでプレーしていて，ボールの所持を失った場合，自チームが有利になるためにコートプレーヤーが自陣のゴールエリアに立ち入った場合も（9：7ｅを適用して）段階的罰則を与える。	修正 修正
競技終了前 30 秒間（9:10ｃ，9:10ｄ） ~省略~	**競技終了前 30 秒間（9:11ａ，9:11ｂ）** ~省略~	修正
“３ｍの距離を確保しない”とき（9：10ｃ） ~省略~ 競技終了前30秒間で各種スローに直接関係しない違反で各種スローができずに競技が中断した場合（例：不正交代，交代地域でのスポーツマンシップに反する行為での違反など），競技規則 9：10ｃを適用する。 各種スローの実施の際に，3ｍより近い位置にいる相手プレーヤーが，例えばブロックするなどによりスローの結果やスローの実施を**積極的に妨害**した場合，競技規則 9：10ｃを適用しなければならない。 ３ｍより近い位置にいるが，スローの実施を積極的に妨害しなかった場合，罰則を適用しない。各種スローの実施の際，３ｍより近い位置にいて，シュートをブロックしたり，パスをインターセプトしたりした場合も競技規則 9：10ｃを適用する。	**“３ｍの距離を確保しない”とき（9：11ａ）** ~省略~ 競技終了前 30 秒間で各種スローに直接関係しない違反で各種スローができずに競技が中断した場合（例：不正交代，交代地域でのスポーツマンシップに反する行為での違反など），競技規則 9：11ａを適用する。 各種スローの実施の際に，3ｍより近い位置にいる相手プレーヤーが，例えばブロックするなどによりスローの結果やスローの実施を**積極的に妨害**した場合，競技規則 9：11ａを適用しなければならない。 ３ｍより近い位置にいるが，スローの実施を積極的に妨害しなかった場合，罰則を適用しない。各種スローの実施の際，３ｍより近い位置にいて，シュートをブロックしたり，パスをインターセプトしたりした場合も競技規則 9：11ａを適用する。	修正 ３段落以降 修正 修正 修正
競技終了前30秒間における身体的な違反に対しての失格（9：10ｄ） ~省略~	**競技終了前 30 秒間における身体的な違反に対しての失格（9：11ｂ）** ~省略~	修正
競技終了前30秒間でのアドバンテージについて（9：10ｄ最終段階） ~省略~ 競技時間中にあっても，終了の笛と同時であっても，違反があればいわゆるノータイムの７ｍスロー（2：4 第１段落）を行って競技規則 9：10ｄは適用されることになる。この状況におけるレフェリーの判定は（18：11 における）事実判定である。	**競技終了前 30 秒間でのアドバンテージについて（9：11ｂ最終段階）** ~省略~ 競技時間中にあっても，終了の笛と同時であっても，違反があればいわゆるノータイムの７ｍスロー（2：4 第１段落）を行って競技規則 9：11ｂは適用されることになる。この状況におけるレフェリーの判定は（18：11 における）事実判定である。	修正 ２段落 修正
無人のゴールと 7mスローの判定（15:1，競技規則解釈６ｃ） 競技規則解釈６ｃ~~ｆｒ~~は、~省略~	**無人のゴールと 7mスローの判定（15:1，競技規則解釈６ｃ）** 競技規則解釈６ｃは、~省略~	削除
各種スローの実行（第 15 条） ~省略~	**各種スローの実行（第 16 条）** ~省略~	修正
失格となったプレーヤーによる、競技再開前の極めてスポーツマンシップに反する行為について（17:9ｄ） 直接または 3 回目の退場による失格を判定されたプレーヤーが、競技再開前に競技規則 9:10ａに該当するような極めてスポーツマンシップに反する行為をした場合，そのプレーヤーに対して報告書を伴う失格を追加する。この場合，チームはコート上のプレーヤーを，4 分間減らさなければならない。	**失格となったプレーヤーによる、競技再開前の極めてスポーツマンシップに反する行為について（17:9ｄ）** 直接または３回目（4 人制：2 回目）の退場による失格を判定されたプレーヤーが、競技再開前に競技規則 9：10ａに該当するような極めてスポーツマンシップに反する行為をした場合，そのプレーヤーに対して報告書を伴う失格を追加する。この場合，チームはコート上のプレーヤーを，4 分間（6 人制）減らさなければならない。	加筆 加筆

加筆：**太赤字**　　修正：青字　　削除：~~赤字~~

チームタイムアウト電子申請システム規定

旧（2023 年 4 月 1 日発行）	新（2024 年 7 月 1 日発行）	備考
３．上記１．または２．に記載されている状況が，競技終了前 30 秒間に生じた場合，チーム責任者は，７ｍスローまたはボールの所持（フリースロー）のいずれかを選択する権利を有する。 　チーム責任者によってボールの所持が選択された場合，競技を中断したときにボールがあった位置から，フリースローによって競技は再開される。	３．上記１,２**,６,８**に記載されている状況が，競技終了前 30 秒間に生じた場合，チーム責任者は，７ｍスローまたはボールの所持（フリースロー）のいずれかを選択する権利を有する。 　チーム責任者によってボールの所持が選択された場合，競技を中断したときにボールがあった位置から，フリースローによって競技は再開される。	修正　加筆
５．～省略～ 競技の中断中に，チームタイムアウトの請求がなされた場合。 （ａ）　ブザーボタンを押してチームタイムアウトを請求したチーム役員に対して，段階的罰則を適用する（ただし，本規定９．を参照）。 （ｂ）　中断の理由に相応しいスローで，競技を再開する。	５．～省略～ 競技の中断中に，チームタイムアウトの請求がなされた場合。 （ａ）ブザーボタンを押してチームタイムアウトを請求したチーム役員に対して，段階的罰則を適用する（ただし，本規定９．を参照）。 （ｂ）　中断の理由に相応しいスローで，競技を再開する。 **５（ｃ）および５（ｅ）により不正にチームタイムアウトを請求したチームは、チームタイムアウトの請求権を１つ失う（これにより当該チームのチームタイムアウトの請求合計数が、１つ減ることになる）。**	※最終段落 加筆
６．　相手チームがボールを所持しているときに、上記５．に記載されている状況が生じた場合、競技規則 9：10 b に基づき判定する。	６．　相手チームがボールを所持しているときに、上記５．に記載されている状況が生じた場合、競技規則 9：10 b に基づき、**ボールを所持しているチームに対して、7mスローを**与える。	加筆 修正

加筆：太赤字　　修正：青字　　削除：~~赤字~~

ビデオ判定システム規定

旧（2023 年 4 月 1 日発行）	新（2024 年 7 月 1 日発行）	備考
ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況 No.8　状況：競技規則第 8 条 概要説明：レフェリーが 2 分間の退場を適用すべきか、あるいは 9:5，9:6，9:9，9:10 に基づく失格を適用すべきかどうかについて、重大な疑念を持つ場合。	**ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況** No.8　状況：競技規則第 9 条 概要説明：レフェリーが 2 分間の退場**（4 人制は次のターンオーバーまで）**を適用すべきか、あるいは 9:5，9:6，9:9，9:10，**9：11** に基づく失格を適用すべきかどうかについて、重大な疑念を持つ場合。	修正 加筆 加筆
ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況 No. 9　状況：競技終了前 30 秒間で試合状況が変わるような場面 概要説明：レフェリーが 7mスローの判定、または得点を決めたプレーヤーによる違反ついて重大な疑念を持つ場合。	**ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況** No. 9　状況：競技終了前 30 秒間で試合状況が変わるような場面**（競技終了合図のあとに行われる最後の一投を含む）** 概要説明：レフェリーが 7mスローの判定、または得点を決めたプレーヤーによる違反**に**ついて重大な疑念を持つ場合。	加筆 加筆
ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況 **備考：** ～省略～ ４．VR を使用するかどうかを決定できるのは、両レフェリー（または TO）のみである。~~使用する際には両チームと観客に対して、VR を使用し状況を確認することを示す。~~積極的に「VR」の合図を MO に向けて示したプレーヤーまたはチーム役員に対して、競技 ~~５．~~規則 9:7～9:8 に従い、段階的罰則が与えられる。	**ビデオ判定システム（以下、VR）が使用される可能性がある状況** **備考：** ～省略～ ４．該当する場合、VR を使用するかどうかの決定は、両レフェリーと TO の裁量によって行われる。**両レフェリーまたは TO の観察に基づく VR 検証による事実判定は、最終的なものである。**積極的に「VR」の合図を MO に向けて示したプレーヤーまたはチーム役員に対して、競技規則 9:7～9:8 に従い、段階的罰則が与えられる。	修正 削除　加筆 削除
様々な状況における任務分担 ～省略～ 状況：両レフェリーが競技終了前 30 秒間において、競技規則 9:10 c または 9:10 d に基づく重大な疑念がある（もしくはＴＯから合図があった）。 ~省略~	**様々な状況における任務分担** ～省略～ 状況：両レフェリーが競技終了前 30 秒間において、競技規則 9:11 a または 9:11b に基づく重大な疑念がある（もしくはＴＯから合図があった）。 ~省略~	※９つ目 修正

付　録

旧（2023 年 4 月 1 日発行）	新（2024 年 7 月 1 日発行）	備考
~~付録1）~~ ~~～省略～~~		削除
付録2） 服装や保護を目的にした装具に関する規定 体に身につけるものに関して，国内および国際において，許可されるもの/許可できないものを表と写真入りで示した（5：9）。国内においては，全日本大会で適用し，ブロックおよび各都道府県大会では推奨する。	**付録2）** 服装や保護を目的にした装具に関する規定 体に身につけるものに関して，国内および国際において，許可されるもの/許可できないものを表と写真入りで示した（5：9）。国内においては，全日本大会で適用し，ブロックおよび各都道府県大会では推奨する。 **異なる運用をする場合は、主催者はその運用を大会要項に定めることとする。**	加筆

付録1　および　付録2に関して ※~~2016 年 7 月 1 日付，IHF より発行された競技規則書では、IHF では禁止しているフェイスマスクを着用したプレーヤーがいた場合の対処の仕方について記載している。これはフェイスマスクに限らず，他の身につけることが禁止されている装具についても同様に対処することが明記されている。また~~付録 2 では，プレーヤーの装具について身につけることが許されるものと，禁止されるものについて，写真を用い，具体的に示されている。	**付録1　および　付録2に関して** ※ **付録 1 について** **IHF 競技規則書 2024 年版より、競技規則書から削除。** ※ 付録 2 について プレーヤーの装具について身につけることが許されるものと、禁止されるものについて、写真を用い、具体的に示されている。	削除 加筆 修正
~~**付録1(IHF 条文)**~~ ~~～省略～~~		削除
付録2　フェイスマスクや着用することができない装具　許されるもの/許されないもの(5:9) **服装や保護を目的とした装具に関する規定** 2023 年 4 月 1 日 （公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部 ~~1　頭部や額への装具~~ ~~～省略～~~ ~~2　ヘアバンド~~ ~~～省略～~~ ~~3　めがね・ゴーグル~~ ~~～省略～~~ ~~4　マウスピース~~ ~~～省略～~~ ~~5　肩の保護やアームスリーブ~~ ~~～省略～~~ ~~6　肘の装具~~ ~~～省略～~~ ~~7　膝の装具~~ ~~～省略～~~ ~~8　ふくらはぎの装具~~ ~~～省略～~~ ~~9　足首の装具~~ ~~～省略～~~ ~~10　服装~~ ~~～省略～~~ ~~11　アクセサリー~~ ~~～省略～~~ **付録3** **交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン** **使用に関する詳細は主催者によって定めることができる** 2020 年 7 月 13 日（公財）日本ハンドボール協会指導・普及本部競技・審判本部 ~~～省略～~~	**下記の詳細は、（公財）日本ハンドボール協会ホームページ「競技規則　2024 年度競技規則(2025.5.30)、2024 年度競技規則 新旧対応表(2024.5.15)」を参照のこと。** **⇒https://www.handball.or.jp/rule/index.html** **付録2　フェイスマスクや着用することができない装具　許されるもの/許されないもの(5:9)** **服装や保護を目的とした装具に関する規定** 2024 年 7 月 1 日 （公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部 **付録3** **交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン** **使用に関する詳細は主催者によって定めることができる** 2020 年 7 月 13 日 （公財）日本ハンドボール協会指導・普及本部 競技・審判本部	加筆 修正 削除 削除